



「個別最適化な学び」 「協働的な学び」
を進めるために有効な一人一台端末



これが守高選定機種
のスペックだ！！



※BYODとは「Bring Your Own Device」の略

- ◆推奨機種：SurfaceGo3
- ◆端末情報
 - ・OS:Windows11
 - ・CPU:Pentium6500
 - ・メモリ：8G
 - ・SSDドライブ：128G B
 - ・Wi-Fi6：IEEE802.11
 - ・3年間安心保障パック
 - ・キッキング作業込み
- ◆活用アプリ
 - ・ロイロノートスクール
 - ・Microsoft Teams

キーワードは学びの「個別最適化」

◆化学基礎（橋本先生の実践）
橋本先生が実施されていた授業の見学に行きました。授業で使用するスライドをロイロノートを活用して生徒に配布し、生徒は授業を受けながら、大切に思った内容を追記していき、オリジナルのスライドに作り上げていく形で展開されていました。生徒は自身が理解できていない部分を中心に調べ、深めていくっており、端末導入されたからこそできる授業でした。

教科での活用事例

今年度、第一学年の授業担当の先生方には、端末を活用した様々な実践をしていただいています。これまで本校で蓄積した授業のノウハウに加え、端末が導入されたからこそできる学びに取り組んでいます。本校では目標にしていた学んだ知識を活用し、「自ら問いを立てることのできる力の育成の推進につながる」と考えています。端末を使うことが目的になり、「活動あつて学びなし」の授業になるようなことはもちろんあつてはなりませんし、生徒の皆さん・私たち教員の負担が増えているのは何の意味もありません。効果的で効率的な使い方を検討し、ぜひ生徒にとっても教員にとってもよりよい「守高モデル」を作りたいですね。ここでは端末を活用されている授業の紹介です。

守高の一人一台端末の活用開始！

6月29日に本校でも一人一台端末の配布が完了しました。配布直後に力メラが起動しないなどの不具合もありましたが、販売業者のご協力もあり何とかスタートをすることができました。7月の学園祭終了後には、第一学年の担任よりLHRで「ICTびらき」を行い、端末使用上の注意と各アプリの活用方法の説明をさせていただきました。学年での活用として、「朝の検温記録・学習記録調査」や「授業アンケート」など、授業以外での活用からまずはスタートしました。ICTの担当者としては、授業よりもまず「端末を使うのが当たり前」の雰囲気づくりという意味で、日常から使うことを大切にしていきたいと考えています。2学期からは各教科少しずつ授業内で活用し始めていきます。使うことが目的になってはいけな思いますが、端末の導入により「協働的な学び」「深い学び」につながるような使い方を目指していきたいと考えています。

今年の1月に文部科学省の「Society 5.0の実現に向けた人材育成に関する政策パッケージ」という資料の中で、以前から言及されていた「個別最適化な学びの実現」について言及してありました。そもそも「指導の個別化」は、一定の目標を全ての児童生徒が達成することを目指し、個々の児童生徒に応じて異なる方法で学習を進めることであり、その中で生徒自身が自らの特徴やどのような学習を進めることが効果的であるかを学んでいくことなども含みます。今回の資料のポイントは、デジタルによる個別最適化を進めること、アルゴリズムやAIが支持する学びを他律的に行うこととなり、「自ら調整する力の育成」につながらないことです。重要なのはAI任せではなく、協働的な学びの循環を通して自身で充実させること。本日にこれが実現できれば素晴らしいですが、どのように進めるか、検討していく必要があるかもしれません。



↑化学基礎での実践
生徒は端末を使いこなし、作業を進めていました。生徒は興味ある内容はネット検索しながら深めていました。



↑検温記録や調べ学習に活用しています。



**カメラにはオートフォーカス搭載！
四季を感じる撮影も可！**

SurfaceGo3の
カメラスペック

- ◆Windows Hello 顔認証によるサインイン用カメラ (前面)
- ◆500万画素のフロントカメラ (1080p HD ビデオ)
- ◆800万画素オートフォーカス付きリアカメラ (1080p HD ビデオ)

結構きれいに撮れます



守山高校中庭に咲く金木犀 (キンモクセイ) (SurfaceGo3を利用して10月3日撮影) 撮影してみると非常にきれいに撮れ、すこしうれしくなります。



教科での活用事例(反転授業の実践)

今回は一足早く一人一台端末がスタートした中学校の授業を見学に行きました。高校との違いは端末の持ち帰りはせず、学校で保管されているところ。生徒たちは休み時間にタブレット庫から取り出して授業で活用する準備をしていました。中学では2年前からタブレットが全員に配布され、授業内やHRで活用されてきました。この2年間のノウハウは高校生のBYODにとっても参考になると考えています。併設型中高一貫校の守山中学校だからこそ、互いのノウハウやアイデアを合わせ、**6年間を見通したICT活用を進めていきたい**と考えています。今回も端末を活用されている授業の紹介です。

◆社会(野澤先生の実践)

野澤先生が中学一年生で実施されていた授業の見学に行きました。先生の授業プリントは、通常板書する内容がすでに示されており、授業の中ではその内容を活用したり、情報をまとめる**「反転学習」**を実践していました。野澤先生は単元を通したねらいを提示したうえで、動画や情報の詰まったプリントを活用しながら説明をされていました。生徒たちは情報を元に、ロイロノートで内容をまとめた資料やロイロノートに対する解答を作成していました。生徒たちは端末やロイロノートなどのアプリを私なんかよりずっと使いこなしており、素晴らしい資料を作成していました。



全員が端末でロイロノートで資料作成を行っていました。先生の説明や配られた資料をもとに、自分なりにまとめ、活用していました。タイピングの速さや、アプリの使いこなしにとても驚きました。授業プリントの工夫により活用や思考の時間を確保され、深い学びにつながる授業のモデルとしてとても参考になりました。

【反転学習】
タブレット端末やデジタル教材で授業前に自宅学習し、授業では演習や議論を行う授業形態。現在ではICTも活用した反転授業の検討が進められている。

「使わなければならない」なんて気負いは不要！

スローガンは「いつでも (I) ちょっと (C) 使える (T)」なんてどうでしょう？

先日BYODを担当している他県の先生方と交流する機会があり、各校の様子を聞かせていただきました。取り組みの中で困っていることや各校での活用状況等を共有しました。多くの学校がおっしゃっていたのは、「**まずはできることから少しずつ活用を広げていく**」とのことでした。どこの学校も、まずは教員が端末に慣れるため、「職員会議のペーパーレス化」や「検温記録のデータ化」からやっていきたいとのことでした。実はこれらは守山高校ですでに実践できていることです。今回、ICT担当としては「**どこの学校も活用を検討されている段階なんだなあ**」と、少しホッとしました。今後は多くの学校と情報共有をしながら有効な活用方法の模索をしていこうと思います。この交流の中で参考になったのは「**学校生活全体で端末活用場面を見つけること**」です。例えば、出欠連絡や検温記録、生徒からの面談要請などを端末で管理しており、端末がなければ学校生活が成り立たなくなりつつあるとのことでした。**授業外で端末を使うシステムを構築**するというのは参考になりました。授業内での活用法はもちろん検討していかなければなりません。私自身はまずはもっと気楽に使うことから始めていこうと考えています。「**ちょっと時間余ったし、詳しく調べてみる**」といった**「ちょい使い」**なら取り入れやすいかなと。買ったから使わなければならないなんて本末転倒。ちょい使いの積み重ねで有効な活用を見出していければと考えています。